

1. 評価結果概要表

作成日 平成20年11月13日

【評価実施概要】

事業所番号	3270700382		
法人名	社会福祉法人 浜田福祉会		
事業所名	グループホーム みかわ		
所在地	島根県 浜田市 内村町 365番地4 (電話) 0855-26-0348		
評価機関名	NPOしまね介護ネット		
所在地	島根県 松江市 白瀉本町 43番地		
訪問調査日	平成20年11月7日	評価確定日	平成20年11月26日

【情報提供票より】 (20年10月1日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成 14 年 11月 1日		
ユニット数	1 ユニット	利用定員数計	9 人
職員数	9 人	常勤2人, 非常勤7人, 常勤換算9.36人	

(2) 建物概要

建物構造	木造 造り	
	1階建ての	1階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	15,000 円	その他の経費(月額)	9,000 円
敷金	無		
保証金の有無 (入居一時金含む)	無	有りの場合 償却の有無	
食材料費	朝食	円	昼食 円
	夕食	円	おやつ 円
	または1日当たり 1,000 円		

(4) 利用者の概要(10月1日現在)

利用者人数	9名	男性	1名	女性	8名
要介護1	1名	要介護2	1名		
要介護3	3名	要介護4	4名		
要介護5	0名	要支援2	0名		
年齢	平均 89歳	最低	65歳	最高	100歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	浜田医療センター・中村呼吸器内科医院・三隅整形外科医院・田中心療内科クリニックおさだ眼科医院・国府歯科医院
---------	---

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

夜間入浴、毎日の買い物、魚釣りなどの楽しみごと、一日の過ごし方など、利用者の希望を一番に考え利用者の思いに沿った支援を心がけているホームである。同法人の運営する特老とデイサービスが隣接していて、行事や研修などを通じ交流している。法人主催の福祉交流祭には地域の人も参加し、利用者の作品を展示している。災害時には地域の避難場所になるなど地域の中での役割を担っている。

【重点項目への取組状況】

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取組、改善状況(関連項目:外部4)
	「地域密着型サービスとしての理念」「運営推進会議の定例化」「地域との交流」などが課題であったが、それぞれ改善に向けた取り組みが行われ、地域の人との交流が広がってきている。
重点項目②	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	職員4人が評価をし他の職員の意見も聞いてまとめた。職員は評価を通して災害時の備えなどで気づいたこともあり、日々のケアを振り返る機会になった。改善点を会議などで話し合っている。
重点項目③	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)
	定期的に開催し利用者の生活状況、行事などを報告している。回数を重ねるごとに出席者の間でグループホームがどういうところか理解が深まってきた。地域の集まりなどの情報も出されサービスに活かそうとしている。
重点項目④	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)
	家族の面会時や運営推進会議で意見や要望を聞いている。苦情相談窓口第三者委員を設置している。家族からは室温調節や洗濯物の整理、食べさせて欲しいものなどの要望が出され職員はそれに応じている。
重点項目④	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
	年2回、法人の「たより」を地域全戸に配布している。ボランティアや中学生の職場体験の受け入れ、地域行事への参加、ホームの行事に地域の方を招くなど、交流に努めている。

2. 評価結果（詳細）

外部 評価	自己 評価	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り 組みを 期待し たい項)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	理念の見直しが行われ、人権を尊重した地域密着型サービスとしての事業所独自の理念がある。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	介護計画見直しの時には、理念に基づいてプランを立てているか職員全員で話し合っている。年度初めには法人理事長が職員全員に理念について話している。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	年2回、法人全体の「たより」を地区全戸に配布している。ボランティアや中学生の職場体験の受け入れ、地域行事への参加、地域の集会所「よりあい」での買い物など、地域との交流に努めている。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	職員4人が評価し他の職員の意見を聞いてまとめた。評価をすることで気づいたこともあり、ケアの振り返りになっている。改善点は会議で検討している。	○	年間を通して計画的に取り組まれることを望みたい。

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	定期的開催し生活状況や行事などを報告している。回数を重ねるごとに出席者のホームへの理解が深まり、地域の情報などを通し意見交換を行っている。		
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	市が主催する「地域密着部会」に参加している。疑問点をすぐに調べてもらうなど日常的にも相談しやすい関係が出来ている。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	面会時に報告したり、毎月、金銭報告、近況を書いた便り、写真を送っている。健康面については随時電話での報告もしている。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	面会時や運営推進会議で意見・要望を聞き、サービス向上に活かしている。家族から室温調節や洗濯物の整理のことなどで要望が出され、職員はすぐに対応している。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	今年4月まで職員の退職などで混乱があったが、ホーム全体で利用者にとりげなく関わる事で、利用者への影響は少なかった。		


外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	新人には先輩職員が付き指導を行っている。法人として計画的に研修を行い、職員の希望する研修参加も可能な限り支援している。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	研修で知り合った同業者と情報交換をしたり、職員も相互訪問をするなど交流に努めている。		
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	入居前に見学をしてもらったり、他の施設から入居される場合には事前訪問を行い、十分話し合いをしてからサービスを開始している。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	職員は高齢の利用者の暮らしぶりから強さや生き方を学び、利用者を敬う気持ちを強く持っている。一緒に食事作りなどをする中で教えてもらうことが多い。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	利用者の声を聞き逃さないよう気づきノートに書いたり、申し送り、ミーティングなどで気付いた事を共有している。思いの把握の困難な人には家族から聞いている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	センター方式を取り入れながら日々の生活記録や言葉から課題を探り、本人の希望を大切にしたプランを立てている。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	毎月カンファレンスで見直しを行っている。大きくプランを見直す時には家族と個別相談を行い、意見を反映させている。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	受診や早期退院の支援、法事、美術館行きなど、希望に柔軟に対応している。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	利用者、家族の納得したかかりつけ医となっている。身体機能の低下と共に医師、看護師との連携は欠かせなく、利用者に応じた受診支援をしている。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	入居時、同じ法人の特老の申し込みも行ってもらっていて安心される家族が多い。重度化に伴い日頃から家族に利用者の状態の変化を伝え対応を話し合っている。	○	様々なケースが予想されるので、利用者や家族の希望、状態によってはホームでの看取りも選択肢にあげられることを望みたい。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	トイレや入浴介助の時にはプライバシーを尊重した声かけに気をつけている。処方薬の袋など個人名の書いたものはシュレッダー処理をしている。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	何より本人の気持ちを大切に、という方針で、「自己決定の尊重」を心掛け、食事や入浴時間、過ごし方など、利用者のペースを大切にしている。外出希望には勤務を調整し対応することもある。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	毎日、利用者I、2名と買い物に出かけたり、準備、片付けを一緒に行っている。職員も同じテーブルで、さりげなく見守りながら食事をしている。職員は弁当の時もある。	○	グループホームの特性を考え、職員も利用者と同じ食事を食べられるように法人としての支援をお願いしたい。
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	利用者の希望に沿った支援をし夜八時まで入浴することができる。入浴を嫌がられる方もおられるが、無理強いしないよう声かけを工夫している。		
(3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	食事の準備、洗濯物たたみ、雑草抜きなど出来ることをしてもらい、謝意を伝えている。利用者は書、大正琴、着物を解いて作品を作るなど、得意なことを活かしている。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	利用者が高齢化する中で外出する頻度が減ったが、散歩、ドライブ、外食、魚釣り、買い物、美容院など、出かける機会を作っている。		
(4)安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	夜間は保安管理会社と契約しているが、6時半から夜11時まで鍵はかけていない。外出が予想される時には職員が付き添っている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	日中、夜間を想定して年6回避難訓練を実施している。消防署の協力も得ている。行政からの要請で、避難場所になっている。備蓄もある。	○	過去に大水害のあった地域であり地域の中での役割もあるので、地元消防団とさらに連携を強めていただきたい。
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事や水分量を把握している。メニューは高脂血症の対策のために油物は控え和食中心にしている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	調理台やカウンターの高さは利用者の目線に合わせて低くしてある。利用者の書やみんなで作ったタペストリーが飾られ、つい立てを利用することで広いホールに変化をつけている。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	写真や身の回り品を持ち込みその人らしい居室になっている。利用者の機能に合わせてベッドや家具などの配置を工夫している。		

※  は、重点項目。

※ WAMNETに公開する際には、本様式のほか、事業所から提出された自己評価票（様式1）を添付すること。

